

## 人間の魅力にあふれた「坂本竜馬」

増山雄三

歴史随想を書いていると、ある時期は明治時代に棲んでいたり、江戸時代の崩壊期にいたり、また日本海廻りの北前船で、海をゆききしていた、江戸時代にいる気がするが、その中で、テレビや新聞を見ていると、どちらがわが浮世なのか、不思議に思う。

あと一つ、私にとり忘れられないのは、終戦直前の昭和二十年四月に、小学二年生の私は、空襲警報の後にやってきた、米軍のグラマン艦載機に機銃掃射を浴び、防空壕をハシゴしながら共に逃げ惑った友人が、今ではい歳をした老人で居るのも、不思議に思う。

戦前の日本人は、国家に対して従順だったのは、帝国憲法が発布され、法治国家の国民になった事によるが、一九〇五年には日露戦争に勝つ事で、国家のやる事は間違いがない

という、国への信頼が増していったからだ。  
ところが、太平洋戦争後になると、国民は  
日常の不満を政治に向けるのが普通になり、  
その後の平和についても、日本は対外的にへ  
イコラしすぎるとかといった、いわば贅沢な  
不平不満が、世間に蔓延していった。  
それでも、昭和初年から太平洋戦争の終了  
までの日本は、長い日本史の中で、過去とは  
不連続な異端な時代になり、それは、統帥権  
という帷幄上奏権というもので、陸軍が首相  
にことわる事なく、戦争や事変について、天  
皇に直接上奏できるという権である。  
明治憲法では、天皇は原則として「否」と  
は言わないので、内閣とは無関係に戦争へ叩  
き込む事ができ、この不思議な憲法解釈が齎  
した惨禍が、日本を亡ぼすと共に、他国に対  
しては深刻な罪禍を残したが、要するに、昭  
和の戦争時代は、日本ではなかったのだ。  
もつとも、多くのアジア人にとってには、太  
平洋戦争時代の日本が日本像の全てであり、

兼好法師や宗祇時代の日本など、思いもしないが、せめて日露戦争時代の日本を、日本像として見てくれれば有難いと思う。

日露戦争での勝利は、職人的合理主義で日本  
の危機を脱したものだ、幕末維新に話を  
遡らせると、なにしろこの時期は秩序崩壊期  
なので、人々が階級的儀礼を越えて、裸で出  
てきたようなものだった。

なにしろ、勝海舟が幕臣の身でありながら  
も、神戸に海軍塾を開いて、浪人を集めると  
いうような異常な時代で、その塾頭に土佐を  
脱藩した「坂本竜馬」がいて、やがて竜馬は  
長崎で独立し、亀山社中を設立する。

それが後の海援隊という、洋式帆船による  
海運会社になるが、その株主として、薩摩、  
長州、越前福井の諸藩から、資金や資材を集  
め、伊予大洲藩から洋式帆船を借り、土佐藩  
からの資金を期待し、藩から岩崎弥太郎を会  
計掛として出向して貰い、彼は明治後になっ  
てから、三菱会社を設立した。

竜馬は、江戸封建制の中にあつて、海援隊というものを長崎で作り、世界に対して貿易する事を夢見ていていたが、それには、日本が統一国家にならないと困るので、京都の情勢ももたついている事から、慶応二年（一八六六年）の「薩長秘密同盟」のとり持ちを、そうした考えのもとに行つたのである。

その場所は、薩摩藩の京都藩邸で、長州からやつてきたのは木戸孝允だが、薩摩藩は西郷隆盛と弟の従道ほか、大山巖に野津道貫などの人物が並んでいたが、後に彼らは、日露戦争で指導的な地位について、その戦争を勝利に導いたのである。

この時期、長州は蛤御門の変で薩摩に破れて朝敵になり、双方は犬猿の仲だったので、木戸ら一行は、相国寺門前の薩摩藩邸に密かに入つたものの、積年の恨みを持っていた彼は、薩摩と同盟する心理にはならなかった。

それでも、ただただ仲買人の竜馬の言葉だけを信じ、危険極まりない京の都に入つたと

はいえ、会談中は、西郷は自分の意見を言わず、終始無言だったので、木戸は失望して屈辱を覚え、これ以上ここへいれば、同藩への裏切りになると思い、席を辞した。

竜馬はそのとき西郷に、「長州がこれでは可愛想ではないか」と一言いったので、それに西郷は激しく動かされ、木戸を呼びにやつて、一挙に同盟の会談に入ったというが、竜馬の魅力というのはそういう事で、のちに彼は、再び京都が混迷した時、にわかには路上京し、「船中八策」を掲げて倒幕後の政体を明示しつつ、徳川慶喜に大政奉還をさせ、一挙に統一国家を実現させてしまった。

そのあと、西郷が新政府の役人入選をしていた時、竜馬にも相談したものの、竜馬は自分など役人にはならないと言ったので、西郷はこれに鼻白み、では、何をするのかと聞くと言、「世界の海援隊でもやりましょうわい」と言い、西郷を困らせたという。

先述した、海援隊の会計掛だった岩崎弥太

郎が、明治の資本主義を興した巨人だったと  
思うと、彼が竜馬から得た物が、どれほど大  
きかったかは、のちに岩崎が、「世界の海援  
隊」ともいうべき、海運と造船の三菱を興し  
た事でもよく分る。

竜馬の子供時代分は茫洋としていたが、十  
四才で剣術道場に通い、天賦の才があったの  
で千葉道場に入って修行すると共に、物事の  
本質を掴む能力にも秀でていたので、オラン  
ダの「オランダ国憲法」を読んで、オランダ  
の市民的権利や政体について、詳しく理解す  
るようになっていった。

それでも、竜馬は三十二才の時、中岡慎太  
郎と共に暗殺されるが、その時、あれだけの  
剣客でありながら、刀も抜けず頭を割られ、  
中岡と一緒に旅館の二階で絶命を待つ間、中  
岡に向かって、それにしても勇気がある奴ら  
だと、苦しみながらいったという。

いずれにせよ、江戸時代の人というのは、  
そのような透明な死生観を誰もがもっていた

の  
だ  
ろ  
う  
が  
、  
と  
も  
か  
く  
も  
、  
三  
十  
二  
年  
の  
生  
涯  
な  
が  
ら  
、  
竜  
馬  
の  
生  
涯  
に  
は  
鮮  
や  
か  
な  
春  
夏  
秋  
冬  
が  
あ  
り  
、  
日  
本  
史  
上  
、  
竜  
馬  
ほ  
ど  
素  
晴  
ら  
し  
い  
青  
春  
を  
送  
っ  
た  
人  
は  
、  
恐  
ら  
く  
い  
な  
い  
だ  
ろ  
う  
。  
ま  
た  
、  
生  
涯  
が  
短  
く  
て  
も  
、  
春  
夏  
秋  
冬  
が  
あ  
っ  
た  
の  
で  
、  
悔  
や  
む  
に  
足  
り  
な  
い  
と  
、  
死  
ぬ  
前  
に  
言  
っ  
た  
も  
う  
一  
人  
の  
人  
物  
が  
、  
長  
州  
の  
「  
吉  
田  
松  
陰  
」  
と  
い  
う  
若  
者  
だ  
っ  
た  
が  
、  
彼  
は  
底  
抜  
け  
に  
明  
る  
い  
男  
で  
あ  
っ  
た  
も  
の  
の  
、  
大  
志  
を  
抱  
い  
た  
が  
た  
め  
に  
、  
現  
実  
と  
は  
調  
和  
で  
き  
ず  
、  
失  
敗  
の  
連  
続  
だ  
っ  
た  
。  
ペ  
リ  
ー  
艦  
隊  
に  
乗  
り  
込  
み  
、  
海  
外  
渡  
航  
を  
試  
み  
、  
国  
の  
大  
禁  
を  
犯  
し  
た  
彼  
は  
蟄  
居  
さ  
せ  
ら  
れ  
、  
家  
業  
の  
松  
下  
村  
塾  
で  
伊  
藤  
博  
文  
な  
ど  
を  
教  
え  
た  
が  
、  
後  
に  
安  
政  
の  
大  
獄  
で  
幕  
府  
に  
刑  
殺  
さ  
れ  
る  
の  
は  
、  
二  
十  
九  
才  
な  
の  
で  
、  
竜  
馬  
よ  
り  
短  
命  
だ  
っ  
た  
。  
し  
か  
し  
、  
彼  
の  
膝  
下  
か  
ら  
は  
、  
多  
く  
の  
維  
新  
の  
功  
労  
者  
が  
輩  
出  
し  
、  
高  
杉  
晋  
作  
、  
久  
坂  
玄  
播  
、  
伊  
藤  
博  
文  
、  
山  
県  
有  
朋  
、  
前  
原  
一  
誠  
と  
数  
え  
上  
げ  
れ  
ば  
、  
そ  
の  
ま  
ま  
長  
州  
革  
命  
派  
の  
名  
簿  
が  
出  
来  
そ  
う  
だ  
。  
令  
和  
四  
年  
二  
月